

会 議 録

会議名称	平成 28 年度 第 1 回柳川市総合計画審議会
日 時	平成 28 年 6 月 30 日（木） 午後 2 時～午後 3 時 40 分
会 場	柳川総合保健福祉センター「水の郷」視聴覚室
委 員 （欠席者は枠囲み）	馬見塚 英典、 太田 豪 、新谷 将史、富安 信一郎、川津 匡宏、太田 達明、松尾 美智代、片山 潔、富田 信雄、山下 宗利、瀬戸口 京子、益田 幸、伴 和美、松延 享朋、清澄 由美子、作本 憲行、上田 恵佳、待鳥 暁子、生田 裕子、中村 国保、長嶋 真穂、平川 裕香
次 第	1 開 会 2 委嘱状交付 3 委員紹介 4 会長及び副会長の選任 5 諮 問 6 市長あいさつ 7 議 題 （1）第 1 次総合計画概要について （2）柳川市まち・ひと・しごと創生総合戦略について （3）第 2 次総合計画策定方針とスケジュール（案）について （4）次回開催日について 7 月 2 1 日（木） 1 4 時 0 0 分 市民会館第 1 会議室 （5）その他 8 閉 会
会議資料	■当日配布 資料 1 総合計画概要版 資料 2 柳川市まち・ひと・しごと創生総合戦略体系図 資料 3 第 2 次総合計画策定方針とスケジュール その他 名簿、設置要綱 2、第 1 次柳川市総合計画、柳川市人口ビジョン、柳川市まち・ひと・しごと創生総合戦略

1 開 会

高崎部長が進行

2 委嘱状交付

机上に配付

3 委員紹介

名簿順に自己紹介

4 会長及び副会長の選任

事務局案（会長に佐賀大学山下教授、副会長にアヴァンティ清澄副社長）を提案
→承認

5 諮 問

別紙のとおり諮問

6 市長あいさつ

改めましてご挨拶申し上げます、皆さんこんにちは。

昨日までは柳川市も大雨でした。今朝のニュースを見ましたら累計が 135mm ということでしたが本日は梅雨の一休みというところかと感じております。

大変お忙しい中に総合計画審議会にご出席いただき誠にありがとうございます。また、委員の就任にあたりましては快くお引き受けいただき心から厚く御礼申し上げます。

先ほど自己紹介がございましたけれども、佐賀大学教授の山下先生をはじめ、いろんな団体の方がご出席いただいています。特に公募の方で 3 名応募していただきましてありがとうございます。

さて、本市は平成 17 年 3 月に合併し、新市が誕生しました。その後に策定しました平成 19 年度から平成 28 年度までの 10 年間を計画期間とする柳川市総合計画を市政運営の指針としてまいった所でもございます。その第 1 次総合計画は今年度が最終年次となっておりまして、今年度新たに第 2 次総合計画を策定しなければなりません。

この 10 年間、西鉄柳川駅周辺の整備や東側土地地区画整理事業、また、幹線道路の整備、農地等の基盤整備、さらには各校区のコミュニティセンターの整備など合併による有利な財源を活用して柳川のまちづくりを着実に進めてきたところであります。

しかしまだ課題は多く、継続事業として柳川市文化会館の建設、ごみ焼却場、火葬場の建設など大変多くございます。また、若者の雇用対策や高齢者の医療・福祉対策、ブランド力を生かした産業の育成、柳川の特長を生かした地域づくりなど時代のニーズを捉えながら課題解決に取り組んでいかなければなりません。

柳川市では昨年 10 月にまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定をみました。その中で柳川の歴史、文化風土に誇りや愛着を持つふるさとづくりをベースに若い世代と希望を叶え、柳川の子育て・暮らしに幸せを感じるひとづくりと水郷柳川の風情や快適さを共感し、人を惹きつけるまちづくりを行い、柳川の地域資源や産物を誇れる仕事づくりに繋げていくという 4 つの基本目標を掲げております。

今回第 2 次計画の策定にあたっては、この総合戦略の基本目標を継承、肉付けをしながら、本市の活性化に必要な施策を盛り込んだプランを策定したいと考えておりま

す。この第2次総合計画は柳川の売りを明確化した特徴ある施策を提案していただくと共に安心安全で柳川に定住できる環境づくりに向けてご協議いただきたいと思います。山下会長様をはじめ、委員の皆様には大変お世話をおかけしますが、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

会長あいさつ)

改めまして皆さんこんにちは、佐賀大学芸術地域デザイン学部の山下宗利（やまし たむねとし）と申します。所属に芸術とついているんですけれども芸術的センスというの はほとんど持ち合わせておりませんで、今やっている仕事というのは地域活性化だとか地域創生ということを私達の学部で目指しております。アート、芸術を用いて地域を元気にすることが出来ないだろうかということでこの4月にこの学部を作り上げまして、4月に115名の新入生が入ってまいりました。そういうことで地域活性化というものに取り組んでいます。僭越ながら2年間よろしくお願い申し上げます。

今朝の新聞報道でもありましたとおり、国勢調査で明らかに少子高齢化というものが進みつつある、そのような中で地域の独自色をいかにはつきしながら地域の皆さんが考えた地域を活性化、再生していくのかそういうことが求められているというふうな時代だと考えております。これまでのような高度経済成長が見込めない中でいかにして他に負けない柳川独自の特長を生かしながら地域を元気にしていくのか、そして皆さんがこの柳川を誇りに思っ てより良い暮らしが出来るのかそのようなことに少しでもお手伝い出来たらと思ひましてこの役をお引き受けさせていただきました。これからどうかよろしくお願いします。

副会長あいさつ)

私、柳川市民でもございませんで、福岡の生まれでもないんですが、先ほどコミュニティエフエム（79.3MHz）を立ち上げられるというお話がございました。大牟田の方ですか。こちら柳川でも聴けるんですということを先ほど伺いました時に人間はここからここまでが我が町、ここからここは隣の町と区切りたがるものでござい ますが、本来土地は繋がっています。人と人が行き交ってこそ、そこに交流が生まれ、経済というものも動いていくのではないかなというふうに捉えておきまして、ある意味よそ者ではございますが、むしろ外からの目でこの柳川の発展の一助になればということで僭越ながら副会長という立場を受けさせていただきました。微力ではございますが皆様どうぞよろしくお願いします。

7 議 題

（1）第1次総合計画概要について

会長)

説明に関して質問等ございませんでしょうか。何でも結構です。あまり固くならず、ご質問されてください。

ちなみに目標人口が71,000人だったんですけど、現在の人口は何人ですか。

事務局)

平成 28 年 3 月末で 67,300 人という状況です。

会長)

また後程でも構いませんので、お聞かせいただきたいと思います。それでは(2) 総合戦略につきまして事務局説明をお願いします。

(2) 柳川市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

会長)

ありがとうございました。柳川市が進めている 2015 年度からの 5 か年の総合戦略について説明をいただきました。ふるさとづくり、ひとづくり、まちづくり、しごとづくり、これらをうまく有機的に連携させながら柳川の魅力を高め、地域の活性化、地域の魅力を高めて発展を進めていこうという総合戦略でございました。私も佐賀で暮らしておりまして中々柳川のことは十分に存じ上げないんですけど、ここで柳川で事業なり生活をされている方に現在の柳川の置かれている現状というものを少しご紹介していただけると皆さんの情報共有になるかなと考えております。突然の指名で申し訳ないんですけど柳川と言うと私が思い浮かぶのは、まず観光なんですけど観光の水郷の船なんですけど、現在の柳川の観光はどのような状況に置かれているのか柳川市観光協会の富安さん、ちょっと説明をお願い出来ませんかでしょうか。

富安委員)

観光の方はここ 3 月まで昨年から徐々に海外の方たちが見えて、伸びてきていたんですが、やはり 4 月に熊本地震がありまして、あれでやっぱり海外のお客様 95%ぐらいキャンセルになりました。で台湾とか徐々に回復傾向にあるんですが、まだ韓国、中国あたりは 50%程度に留まっているように思えます。これは一時的なものだと思いますし、7 月 1 日から「九州ふっこう割」というものが国の予算で開始されますので、それで戻っていただければと思っています。

ただ今回の分は個人向けの商品が主になることなので、団体、修学旅行等も変更になっていますので、その辺を考えるとこれから誘致宣伝に力を入れていかないといけないかなというところなんです。柳川という地区は海外の方にたくさんお越しいただいていますので、その辺り国内の需要というのは萎んでいくというのは分かっていますので、2020 年に向けて国の施策として 4000 万人というのを言っていますので、それに向けて柳川も対策をしていかねばいけないかなということで、インバウンド対策にも力を入れているところでもございます。だいたいこういったところでございます。

会長)

ありがとうございました。熊本地震の影響が柳川にも及んでいるということで、海外の観光客の方はやはりアジアからの方が中心ということによろしいでしょうか。

富安委員)

そうですね、どうしても近いので台湾や韓国からお越しになる方は東京や大阪からお越しになっているような感覚で何度もお越しになります。

会長)

リピーターですか。

富安委員)

リピーターですね。それで海外の方、結構連泊をされるんですね。今、福岡市内の部屋が全然取れないので、近場の柳川とか温泉地の原鶴とかいう所の5連泊、6連泊というのをされて各地、個人のお客さんですけど車で、何百キロ移動するのもあの人たちは全然苦にならないみたいで色んな所を観光して、買い物をして最後に荷造りをされて帰っていくというような形が多い。

会長)

観光のスタイルとしては個人旅行の方が大半を占めているのでしょうか。

富安委員)

川下りなどはまだ団体が中心になっていますけど、宿泊に関しては、かなり個人に移行していて自分たちでインターネットで予約をされてお見えになるというのがほとんどですね。

会長)

最後にもう一つだけ。柳川に訪れている観光客は柳川のどういう所に魅力を感じて訪れているか分かりますでしょうか。

富安委員)

それが一番の課題ですけど、結構柳川市の方でも力を入れてもらっている分でロケ地とかフィルムコミッションで動いて頂いていますので、海外でそういった放送がされて、「ああここで撮影されたのかな」という感じで見られている方もいらっしゃるし、コース的に長崎と阿蘇の中間という分もあったので、その間に立ち寄ってという分もかなり多かったと思います。

会長)

どうもありがとうございました。他の皆様方から観光に関しましてご質問等ございませんでしょうか。

副会長)

観光ということで富安さんにまたご質問させて頂きたいんですけど、確かにインバウンド、減っていると言っても連泊される、しかもここにお金を落としていかれるということで大事な客ということになると思うんですが、海外だけでなく、国内特に九州各地への観光PRで尽力していることがあれば、その辺りもお聞きしたいのですが。

富安委員)

そうですね。関東地区に関してはやはり北陸新幹線、北海道新幹線が開通しましてどうしても北の方を向いているので、誘致宣伝の分に関しては関西地区、中四国の方に力を入れると共に九州域内の方にお越しいただくという戦略でいっ

ています。私たちからすると国内も海外もお客様としては一緒なんです。ただ国内の人口はどうしても減っているんで、その分を補っていくには海外からのお客様というのを受け入れるということでインバウンド対策も並行してやっていくという考えでやっています。

会長)

観光のスタイルもだいぶ変わってきて海外のお客さんも増えてくるということで、これまでの柳川の観光にかなり魅力を作るような地域資源の掘り起し、そのようなものを皆さんの意見を出しながら、どのようにすればもっと良くなっていくのか考えていきたいと思います。ありがとうございました。

それでは次に柳川の第一次産業、農業のことについてお聞きしてよろしいでしょうか。柳川の農業協同組合の馬見塚さん、お願いいたします。農業の後継者とか担い手などの状況をお聞かせいただければと思います。

馬見塚委員)

柳川の農業についてはご覧のとおり平坦地でございます、水田を利用する土地利用型の農業が中心です。米麦大豆、そして一部では個別経営として施設園芸、ハウスや露地、野菜だとか果樹とかというのをされてありまして主に担い手というのは、どこの産地もそうなんです、減少です。もちろん高齢化が大きな原因ということですが、うちの管内でもやっぱり中心年齢が70代80代になっておるということとそれから一部新規就農者、これはハウス関係の高収益の農業に限りますけど、そういった新規就農者が毎年10名弱ぐらい就農してあるようです。しかしどうしても離農される方が多いものですから減っていくことは致し方ない。

この田園風景を維持していくということになりますと集落単位、あるいは地域単位での集落営農組織、そういった法人組織なんかを今立ち上げておるところです。管内で今32の営農組織がございますけど、その内21が法人化をやっている。ということで地域ぐるみでの農業経営をやっています。ですからやっぱり我々としてもこの柳川の農業振興というのは今後図っていかなければならないと思いますし、特に若手の参入というのを期待している所ですが、中々農業には目を向けてくれないというのが実状です。

会長)

ありがとうございました。営農組織等を整備しながら新しい農業の形態を模索していくということでございましたが、6次産業化についてはいかがでございましょうか。

馬見塚委員)

6次産業化についても、これも5年ぐらい前から管内で採れる農産物を利用して加工品の開発を進めております。お陰様で有望加工品というのが5つ6つは出来上がっておりますし、合計して20,30作りましたが中々ヒット商品というのがありません、その内5,6品目ぐらいはある程度認知度なり、購買意欲なり、ついているんじゃないかと思っております。今後についてもそういった農産物を利

用した加工品の開発と言うのを進めていきますし、管内の観光地についても随時、農産物の加工品を置くようにしております。柳川市以外の方面でも着実に販路拡大に努めておるところです。

会長)

ありがとうございます。皆さんの方から農業に関してお尋ねになりたいことがありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは次に商業がどういう状況なのかということについて商工会議所の新谷さん、よろしいでしょうか。

新谷委員)

商工会議所も会員組織なものですから1次産業の方も若干はいますし、2次産業というのが会員数的にも一番多いですが、商業関係で申しますとどうしても商店街さんに代表されるような小売店舗、または卸の業者という所の会員さんの景気といいますかは中々上がっていないイメージがございまして、一つに代表者の方が高齢化されており、特に商店街に代表されるように後継者不足というのが結構頭を悩まされる所でございます。中には息子さんが帰ってこられて家を継ぐ所もございますけれども私限りで辞めるというような商店主の方とか結構ちらほら出てきて、そのままにしておく建物自体もどこかに売って更地になっていく。

昔は「シャッター通り」とかいう表現だったんですけど今は空き地化が進んでいまして「歯抜け」のような商店街になりつつあるという状況で、柳川市さんからもカタローベース※とかいう拠点を設けていますし、そういう空き店舗対策の事業というのも商工会議所と市が一緒になって取り組んでいる所でございます。

それと2次産業的に言いますと特に柳川市の産業で経済的にも就業人口的にも一番2次産業が多く鉄工業関係も会議所会員が多いんですけど、そういった所は割りと新卒の方とか従業員さんを地元で雇いたいんですけど中々働き手がいらないという所がございまして、商工会議所も毎年6月に求人求職の合同会議で地元や近隣の学校さんもお呼びしたりして事業者との合同会議を開催している所でございますが、中々2次産業は、汚いとかきついとかそういうイメージがありますので、中々働き手がないというところで頭を悩ませているところでございます。事前に頂いている資料等で学生さんの地元での就職を希望されている方は以前より増えている感じがするんですけど、そのマッチングというのが中々うまくいっていないというような感じがしている所でございます。

※カタローベース…柳川市創業支援拠点施設「KATARO base 32」のこと。市内における創業を促進するため、チャレンジショップや情報発信等を行う創業支援の拠点となる施設を柳川商店街（京町58-4）に整備しています。平成27年12月26日にオープン。施設の名称「KATARO base 32」は方言で「参加しよう」という意味の「かたろう」と「語ろう」を掛けて、みんなで集まってわいわい語り合う場という意味、商店街の中の創業支援の拠点という意味で「base」、この建物が入り口が狭く奥行きが長い「うなぎの寝床」であり奥行きが32mあることから「32」。

会長)

商店というか商業関係に関しましては、「シャッター通り」から「歯抜け」の状態になって、そこが空き地になったり、コインパーキングになったりということ

で中心市街地の活性化ということも柳川市では重要な取り組みとして行われていると聞いています。いかにして中心市街地というものを維持していくのか、そうしないと特に固定資産税は中心市街地が非常に重要な場所として見なされることがありますので、中心商店街というものの活性化が益々重要になってくると考えています。

それから製造業に関してミスマッチングがあるということをお聞きいたしました。需要はあるんだけどもなかなか来てくれない、職業として選んでもらえないというようなミスマッチングが生じているという話がありましたけれども本日、柳川高校から伴さんがお見えになっているんですけど、高校生の就職、卒業先は今どういう状況なのか教えていただけませんかでしょうか。

伴委員)

昨年の例を言いますと就職希望 107 名いましたけれども求人は 1,000 社近く、求人数 1500 人ぐらいになって、ほとんどが県外。本校は分かりやすくするため就職・進学などの進路先は廊下には生徒名を載せて掲示している。あの先輩が行った所なら間違いないだろうという感覚を持てるようなシステムを行っている。個人情報がありますから個人の名前を載せてほしくない場合は名前を隠して作っています。確かに地元希望は保護者の方に多いです。生徒に関しては昨年の例でいきますと県外希望が 20 名近く、あとの方は大半が県内か九州内という感じになっています。ただ生徒が県外に出たい、例えばトヨタ自動車に行きたいと言っても保護者の方が私のところにいきなりお見えになって「先生うちの子供を県外に出すんですか」というような言い方をされる。それは家族の問題で「家族で考えていただけませんか」というような問題もある。今年も 6,7 名近くの保護者の方がお見えになって「県外に出さないでください」とおっしゃられるので「担任の先生と相談してください」と言いますが、私の名前がおぼえやすいんでしょう。私が就職と進学を両方しているからお客さんもたくさんお見えになってバタバタしているんですけど、いきなり会いたいという形で来られる。それと「どこどこ企業に入れてください」とか昔の考えでお見えになられる方もおられる。

就職希望もたくさんいますが、求人もたくさんいただきますので、今のところ、100%にずっとなっている。特に今年は県外、関東地区と関西地区の企業、大学を訪問させて頂きましたけど動きが早いです。特に就職に関しては大学生が 6 月から昨年より 2 か月早く動いていますので、高校の方も企業さんによっては求人票を出すからには生徒さんを出してくださいねというようなものもあって、なかなか難しい問題がアツています。だからといって生徒にその企業を受けなさいということも言えない。ただ今年の企業の動きは早い。企業に聞くと退職者が増えてくるから若い者を入れたいということを言われます。それから進学に関してもご存じのとおり 2020 年にセンター試験のやり方がかわるということやネット出願などへの対応、一芸、AO入試、指定校入試、公募推薦や併願式でとか様々な様式がアツて、とにかく複雑になってきており、頭を抱えることが多い。

会長)

ありがとうございます。高校の現場で就職進学というものがうまく合わないというお話でしたが、私の大学でも地元志向というのが段々強くなっておりまして関東や関西から来る学生というのが少なくなって、佐賀大学でありながら福岡の学生が私の学部では多くて、そのうち8割ぐらいが女性、2割が男性という状況になっている。残りの男性はどこに行っているのか、そういう分析も進めているんですけど特に女の子は地元だとか実家から行ける所を志向するというのが強くなってきている状況でございます。今の第1次産業、第2次、第3次、そして高校の教育現場とお話を伺いましたが、皆さんの方から何かお聞きしたいことはございませんでしょうか。柳川が今置かれている状況、資料の2にもありますように人口減少による活力の喪失、そして地域資源が今一つ生かしきれていないのではないかと、これまでの柳川の風土、そのようなもので、これから先2040年にかけてどのような形で柳川というものを良くしていけばいいのか。ということでここでは基本目標として「ふるさとづくり」、「ひとづくり」、「まちづくり」、「しごとづくり」この4つを基本に、これから柳川というものを良くしていこうというような取り組みでございました。ここで皆さんから何かございませんでしょうか。

副会長)

お尋ねしたいことが一つございまして、基本目標の「まちづくり」というところに転入者支援というものがあります。流出より流入、とにかく入ってもらえるようにここに他から来てもらうための支援をなさっているとふうに記してありますが、もう少し具体的にどういうことをなさって、どういう成果が見られるのか、その辺りをお聞かせ願いますでしょうか。

事務局)

転入者支援については、平成22年度から「暮らしアクションプラン」という計画を作って定住を進めてまいりました。今現在行っている事業は「空き家バンク」と「もえもんハウス」の2つです。「空き家バンク」は、市内の中古物件を登録して転入者に紹介したりするもので「もえもんハウス」は転入希望者の方に20日以上2か月以内で一軒家を貸し出し、生活を体験してもらうことを行っています。

成果はどうかということでございますが、「もえもんハウス」を利用した方で「空き家バンク」を使って柳川市内に転入したという方が2件あります。どちらの事業も平成24年から実施していますが、4年間で2件という状況です。いろいろな施策を打っていますが、うまく定住につながっていないという状況です。また24年度には、3年間の試行で新婚世帯家賃補助、マイホーム取得補助、中古物件リフォーム補助など行いましたが、その利用者にアンケートを実施したところ、たまたま柳川に住んでいて補助があるからもらっているという意見が多かったので3補助は3年間で辞めている状況です。今次の手を搜している状況です。

副会長)

転入を考えている域はどの範囲までを告知をなさったのでしょうか。どの辺りまで知られた情報だったのでしょうか。やっても意外と知られていなければ、なかなか良いものも効果的に生かされない。どうやってそういった情報を流したのかをよければお聞かせください。

事務局)

基本的には転入の情報発信については、首都圏をメインにチラシやホームページでやってきました。昨年度は「まるごとにつぽん」という東京の浅草にある施設で全国約 20 市町村がブースを設け、PR する場があり、そこで PR を行っていました。今年からは県も力を入れていて東京の有楽町にふるさと回帰支援センターという定住移住を支援するセンターがありまして、そちらで福岡県全体で PR を行われるということで、柳川市もそれに追随していくことを考えています。転入フェアも過去 5 回程度に参加したことがありますが、関西より関東圏の方が移住の志向が高く感じますので、今は首都圏をメインに行っています。

会長)

ありがとうございました。定住促進 J ターン I ターンそれらをいかに広報活動を行いながら進めていくのか住みたい柳川ということでこれも重要な課題かなと思っております。他に何かございませんでしょうか。

中村委員)

一番の問題は人口減、最大のネックだろうと思います。これによってあらゆる影響が広がっていきますから、この前ニュースで見たのですが、福岡県新宮町どこかで驚異的に人口が増やしている町があったと耳にしたのですが、そういう所の施策なり、どんなことをやっているのか調べられたらいいかと思いますが。

事務局)

ご質問にありました新宮町の件なんですけど確かに、国勢調査速報で人口の伸び率が全国一なんです、J R 新宮中央駅が改装されまして、その前にイケアが進出してきましてそこに惹きつけられる様にいろんなショッピングセンターなどのお店が立地してきている。そういう利便性にあわせて駅前にマンションが建ってきている状況で若い人、ニューファミリーがどんどん駅前に入ってきているということで人口が急増している所でございます。もちろん柳川も柳川駅があるじゃないかということになりますが、新宮の場合は通勤圏としてどちらかというと福岡ですが北九州にも行けるし、交通利便性も良いという所で人口が増えている状況でございます。柳川もまねできればいいですけど新宮の現状はそういうことです。

中村委員)

柳川駅前にも賃貸か分譲か分かりませんが出来ています。やっぱり柳川駅東側の区画整理箇所の利用方法を住宅建設、企業誘致、あらゆる面で検討されたいかがかだと思います。

事務局)

ありがとうございます。やっぱりそういった部分で人は寄ってくると思いますので、十分検討して行きたいと思います。

会長)

貴重なご意見ありがとうございました。これからも多くの方々に多くの意見を出していただきたいと考えております。他にございませんでしょうか。なければ次の(3)についてご説明をお願いします。

(3) 第2次総合計画策定方針とスケジュール(案)について

会長)

ありがとうございました。今年中に総合計画について案を出して、1月にパブリックコメント、3月に市長に答申するというような計画で進めてまいりたいと考えております。この総合計画審議会というのは市役所内で議論された内容を皆さんで審議して決めていきたいと考えております。ただいまの策定方針、スケジュール案に関してご質問等ございませんでしょうか。

富田委員)

審議会の中身というのはホームページとかに毎回公表するのでしょうか。また、議事録はどうなるのでしょうか。

事務局)

審議会の議事録のことだと思いますが、ホームページで公開するかということですが、今現在、各回終了次第公表するということは考えておりません。時期を見ながらまとめてということになるかと思いますが、最終的に公開はしたいと考えています。以上です。

富田委員)

今後、データは出てくるのでしょうか。これ以上の資料は出てこないのでしょうか。参考になるビッグデータとか。

事務局)

ビッグデータの利用をするのかという話だと思います。国の方でリーサス※をつくっていて、他の自治体でも利用している所もありますので、活用できれば活用していきたいと思います。お手元に人口ビジョンという冊子があると思いますけどその中で、基本的データなり推計値なりは終わっているところです。

※リーサス…「地域経済分析システム」のこと。ビッグデータを活用した地域経済の見える化システムを経済分野に限らず様々なデータを搭載しています。英語表記(Regional Economy (and) Society Analyzing System)の頭文字を取って、“RESAS”(リーサス)と呼ばれています。「産業マップ」「観光マップ」「人口マップ」「自治体比較マップ」の4つで構成されています。
(<https://resas.go.jp/>)

(4) 次回開催日について

7月21日(木) 14時00分 市民会館第1会議室

(5) その他

8 閉会